



漁業が与える 海への影響と対策

シーフードレガシー

どうして海洋環境や絶滅危惧種の対策を考えるのか

健全な海洋環境を維持することは巡り巡って対象資源の持続性へも繋がることから、MSC認証は海洋環境や生態系への影響も考えて操業している漁業へのみ与えられています(原則2)。

海から存在そのものがいなくなる可能性がある**絶滅危惧種への影響を最小限に抑える漁業者の努力**はMSC認証では重要視される項目の一つですし、

海の動物が生きる**生息地への影響を最小限に抑える努力**も重要視される項目の一つです。

MSCがチェックするポイント

漁業者が自分たちの漁業が海へ与える影響を理解しているか。

モニタリングなどの情報収集が常に行われている

モニタリングの結果を漁業者が知っている

漁業者が自分たちで影響を抑える方法を考え、実行しているか

モニタリングの結果が漁業者の操業に反映されている

対象： 生息地・生態系 と 絶滅危惧種

生息地、生態系への影響って？

一般的に懸念される漁業の影響は底曳漁業のような漁具が海底へ与える影響だったり、喪失した漁具が海に与える影響です。

Untrawled Coral



Trawled Coral



Florida's Oculina Banks. G.Gilmore, Dynamac / L.Horn, NURC, UNCW

絶滅危惧種って？

絶滅を危惧されている種は様々な機関が独自の基準で指定しています；



国内

環境省：環境省レッドリスト

都道府県：

東京都：東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～

神奈川県：神奈川県レッドデータ生物調査報告書

千葉県：千葉県の保護上重要な野生生物 -千葉県レッドデータブック- 動物編

海外

IUCNレッドリスト



実際には何をすれば良い？

- 情報収集(モニタリング)と
- 影響を軽減するための対策が取れる体制を整える事が大事です

絶滅危惧種:

恐らく魚類以外の絶滅危惧種との遭遇は殆どないと思われず。
しかし、それを実証する証拠が必要となるため、モニタリングなどで絶滅危惧種と遭遇する割合を知っている必要があります。また、実際に巻いてしまった場合の対処法を乗組員が知っていることも大事になります。
また、もし遭遇する回数が増えるなど、環境の変化が起きた時に、それを察知し対策を考える体制があることを見せる必要があります。

生息地:

操業による海底への影響(まき網の場合は着底した時)と、漁具を喪失した時の情報を記録することが大事です。また、着底や漁具の喪失が高い場合はそれらの対策を専門家と議論したり、対策の実行まで持っていく体制を築くことが大切です。

生息地・生態系

収集すべき情報(提案)

- 海底への影響
- 漁具喪失の頻度

この二つがポイント

よって網が

- 着底した日時と場所、
- 網の付着物(海底のタイプを知るため)、
- 網の状態(破損したか、喪失したか)

を記録する。そして、対策体制としては年一回これらの情報に興味がある人と情報を共有して協議するような場を設ける。

また興味があればGGGIの国際漁具喪失データベースに登録することもできます。

絶滅危惧種

ウミガメ類

アカウミガメ



アオウミガメ



タイマイ



鳥類

カンムリウミスズメ



アホウドリ



アカアシミツユビカモメ



ミツユビカモメ



ケイマフリ



魚類

ホシザメ



エイラクブカ



ニホンウナギ



シロザメ



フトツノザメ



ウチワザメ



カスザメ



メガネカスベ



哺乳類

キタオットセイ



ゴマフアザラシ



マダライルカ



スナメリ



ハナゴンドウ



ツチクジラ



コククジラ



マッコウクジラ



絶滅危惧種に関するアクション(提案)

東京湾にいる絶滅危惧種の種類は多い。でもそれらを覚える必要はありません。

操業中に行える現実的な範囲としてお勧めするアクションは:

- 操業中の様子を見せるビデオを何回か撮影して審査員に状況を共有できるようにする
 - 海鳥の様子などは専門家とビデオを共有して対策が必要そうなら一緒に考案する
- 鯨類(イルカ含む)と海亀の遭遇は記録する
 - 見た・見てない&50m以内かどうか、くらいの簡単な記録で今は十分です
- 実際に巻いてしまった場合は必ず日時や状況を記録する(可能性としてはイルカ類・サメ類があるかと思えます)
 - 種の判別などはしないで良いので、大きさの参考になるようなものと一緒に写真を斜め上からのアングルで何枚かとってもらい、それを専門家に送れるようにする。
- 遭遇していない日も必要なので、操業した日時を一覧にしてとっておく

巻いてしまった時の対処と記録方法(提案)

ステップ0: 日時と場所、状況を後で記録できるように覚書しておく

網の中にいるもの:

- 鳥:
 - ステップ1: 頭をタオルなどを覆って落ち着かせる
 - ステップ2: そのまま暗いバスケットや蓋つきコンテナに入れて時間くらい様子を見る & 判別のための写真を撮る
 - ステップ3: 大丈夫そうなら逃がす、飛べそうでない場合はBirdLifeなどに連絡し指示を仰ぐ
- ウミガメ:
 - ステップ1: 暗いバスケットや蓋つきコンテナに入れて時間くらい様子を見る & 判別のための写真を撮る
 - ステップ2: 大丈夫そうなら逃がす、泳げそうでない場合は千葉県自然保護課へ連絡する
- 鯨類・サメ類:
 - ステップ1: 判別のため写真を撮る(危険でない範囲で)
 - ステップ2: 水揚げ対象でない場合はそのまま逃がす

最後: データ入力できる時に場所、日時、種、とった行動を記録する。

サメ類の漁獲に関する対策

サメ類(エイ含む)は漁獲対象種となると思いますが、絶滅危惧種の場合は漁獲がその種の回復に悪影響を及ぼさないという証拠が必要になります。

ただ以前頂いた水揚げ記録を確認すると、夏場に赤エイが漁獲される以外のサメ類は確認できませんでした。赤えいは準絶滅危惧種なので、MSC認証では心配される必要はないかと思われます。

協力関係を検討していきたいグループ

絶滅危惧種に関しては種の判別など専門的な知識やサポートが必要になってくると思われます。また、これらの動物を保護することを目的に活動しているグループもあるので、協働関係を築くことで負担を最小限に抑えてMSC認証へ繋げていけると考えられます。

- Birdlife International (種の判別と対策)
- 千葉県自然保護課 (対策)
- 千葉県中央博物館分館: 海の博物館 (種の判別)
- 野鳥の会千葉県支部 (種の判別)
- 水産研究所 (生態)